

2025年度

文学研究科

心理臨床学専攻
教育学専攻

大学院



ともに学び ともに成長する

神戸親和大学

KOBE SHINWA UNIVERSITY

心理臨床学専攻

臨床心理士養成第一種指定大学院

公認心理師
カリキュラム対応

専門的な研究と実習経験を重ね、必要な知識と実践力を修得。



■「臨床心理士」・「公認心理師」の養成を目的としています。

「臨床心理士」とは、臨床心理学の知識や技術を用いて心理的な問題を取り扱う“こころの専門家”のこと。医療や福祉、教育などをはじめ、さまざまな分野でこころの問題を抱えた人に接し、その問題を解決するために働きかける、今もっとも社会に求められる職業と言えます。

「公認心理師」とは心理専門職における初の国家資格で、保健医療、福祉、教育、司法、産業の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心身に問題を抱える人々を支援します。本専攻では、臨床心理士の養成とともに公認心理師についても資格取得(受験資格)のためのカリキュラムを整えています(学部において、公認心理師法附則第2条第1項第3号及び同項第4号の省令で定める大学における科目を修めた者のみが対象)。

■「臨床心理士養成第一種指定大学院」として指定されています。

本大学院は、認定機関である公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会から「臨床心理士養成第一種指定大学院」として指定されており、修了年に資格審査の試験を受験することができます。

■学内に設けた「心理・教育相談室」、学外での病院、児童福祉施設、児童相談所などの提携施設で実習経験を積むこともできます。

心理学分野や臨床心理学での専門研究を深めるだけでなく、臨床心理士・公認心理師として必要な知識、姿勢、実践力を身につけることができます。

免許
資格

1) 臨床心理士(受験資格)

「臨床心理士」受験資格の詳細は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会のホームページ(<http://fjcbcp.or.jp/>)をご参照ください。

2) 公認心理師(国家試験受験資格)

国家資格の「公認心理師」へ対応したカリキュラムを整えています。公認心理師資格取得には、2つの方法があります。1つ目は、学部・大学院において必要な単位を修得したうえで試験に合格する方法、2つ目は、学部で必要な単位を履修し、卒業後、省令で定められた期間の実務経験を積んで試験に合格する方法です。

本学からも
臨床心理士・
公認心理師の
W取得者が
誕生しています。

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

大学院心理臨床学専攻では、本大学院の教育目的を達成するために設定された科目を履修し、基準となる単位数を修得した上で、本専攻が教育目標として掲げる、以下に示す3つの専門的な資質能力を通じて専門的職業に寄与できる者に対し学位を授与します。

- ①心理臨床に関わる領域あるいはその近接領域に関わる領域の幅広い高度な知識を習得し、活用できる。
- ②心理臨床実践の経験を豊富にもち、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等分野で実践できる。
- ③研究能力を高め、専門的知識に裏付けられた修士論文を作成できる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

本心理臨床学専攻では、修了認定・学位授与の基本方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、専門分野の学問を専門的に深く学ぶための専門教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

1 教育内容

- ①心理臨床に関わる領域あるいはその近接領域に関わる領域の幅広い高度な知識の習得のため、必修科目として「臨床心理学特論I・II」、「臨床心理面接特論I(心理支援に関する理論と実践)・II」、「臨床心理査定演習I(心理アセスメントに関する理論と実践)・II」を配します。また、選択必修科目として「臨床心理実習I(心理実践実習A)」、「臨床心理実習I(心理実践実習B)」、「心理学研究法特論」、「心理学統計法特論」、「神経心理学特論」、「学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)」、「認知行動療法特論(心理支援に関する理論と実践)」、「社会心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)」、「対人行動学特論」、「コミュニティ心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)」、「司法・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)」、「精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)」、「精神保健学特論(心の健康教育に関する理論と実践)」、「福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)」、「心理療法特論」、「発達臨床心理学特論」、「投映法特論」を配します。
- ②心理臨床実践の経験を豊富に持つため、必修科目として「臨床心理基礎実習」、「臨床心理実習II」、「相談指導I・II」を配し、学内(心理・教育相談室)及び学外(病院・施設)での実習を数多く取り入れ、事例の発表と検討(ケースカンファレンス)を通して、実践活動の深化を図ります。
- ③研究能力を高めるため、必修科目として「特別研究I・II」、「心理臨床学演習I・II・III・IV」を配し、1年次より集団指導の段階から個別指導へ移行する中で、院生が呈示する研究テーマと研究計画に基づいて、「心理学研究法特論」、「心理学統計法特論」などで習得した専門知識に裏付けられた修士論文の作成を図ります。

2 教育方法

- ①幅広い専門知識の修得のため、バランスを考え、院生が単位修得に必要な学習時間を確保できるよう必修科目と選択科目を設定します。
- ②心理臨床の実践力を身につけるため、臨床心理士及び公認心理師に必要な基本的スキルと態度の体得、さらに心理相談業務の把握と実践的スキルと態度の修得ができるよう実習内容を設定します。
- ③研究能力を高めるため、1年次前半の集団指導では卒業論文の発表を通じて、研究における科学性と臨床における個別性との関連性について理解を進め、個別指導では各院生の設定したテーマ・研究方法・データ分析の適切性を検討し、各院生が質の高い修士論文を完成できるよう「特別研究」、「心理臨床学演習」を設定します。

3 教育評価

- ①履修科目の成績評価として、GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度を活用します。院生が自らの学習成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるように支援します。
- ②修士論文の評価は、修士論文ルーブリック評価基準に従い、各評価項目のA評価・B評価・C評価・D評価の程度によって、大学院担当教員の合議の上、決定します。

臨床実践教育の特色

1

臨床心理基礎実習

『臨床心理基礎実習』では、臨床心理士に必要な不可欠な資質を身につけることを目的としています。具体的には、職業倫理、心理相談業務についての理解を深め、さらに心理面接の実践的技術の修得を目的としたロールプレイ実習を行います。また、教員によるインテーク面接の陪席も行い、臨床心理士に相応しい臨床的態度と技能の修得を図ります。



2

臨床心理実習Ⅰ(心理実践演習A・B)・臨床心理実習Ⅱ

『臨床心理実習Ⅰ(心理実践演習A・B)』では、公認心理師に必要な知識・技能を修得するため、コミュニケーション・心理検査・心理面接・地域支援等の実習を医療機関、心理・教育相談室(学内実習施設)で行うとともに、福祉・教育・司法機関での見学実習も行います。

『臨床心理実習Ⅱ』では、臨床心理士に必要な知識・技能を修得するため、心理・教育相談室におけるケース担当、ケース・カンファレンスでの事例発表を行います。そして、担当ケースに関する事例論文を作成します。また、精神科などの医療機関において、面接・査定・多職種との連携・地域連携等を実践的に学びます。



心理・教育相談室について

心理・教育相談室では、年間860回程度の面接や査定などが行われています。これらを担当するスタッフは、臨床心理士・公認心理師資格をもつ教員やカウンセラー、院生です。院生はこの学内実習施設で、心理臨床活動を実践的に学びます。本相談室で扱っている相談内容は、性格・行動、発達、対人関係、不登校、子育ての問題など多様です。院生は子どものプレイセラピーや思春期や青年期のカウンセリングを中心に実習を行い、心理臨床実践の基礎を学びます。また、本学附属幼稚園や保育園にて巡回子育て相談を行っています。この活動においても院生は重要な役割を担っています。



在学
メッセージ

村上 琴美さん 修士課程 1年次生



神戸親和大学大学院に進学したのは、児童の発達臨床に長けている教授が在籍しており、発達障がいをもつ子どもとの関わり方や、親子支援について深く学びたいと考えたからです。学内の心理・教育相談室だけでなく、児童相談所や病院などの学外の実習体制が整っており、実践的な知識を広く身につけられる点に魅力を感じたことも大きな理由です。

大学院には医療や教育など、専門性の高い先生方がおられます。公認心理師に求められる幅広い領域をまんべんなく、専門的に学ぶことができます。授業では、毎週ケース・カンファレンスでの事例発表とその検討を行っています。大学院1年次生がケースを受け持つのは夏～秋学期ごろですが、私たちはすでに参加し、これまで知識でしかなかったものをより具体的に臨場場面に結び付けて考えることができ、深い学びに繋がっています。

卒業後は、子どもに関わる領域での心理師になりたいと考えています。通信教育プログラムを活用し、子どもたちと接する機会があり、実習を通して子どもとその親への支援に興味を持ちました。大学院では、ケースを持ち、セラピストとして子どもたちに関わる場面があります。これからの大学院生活で、少しずつ実践経験を重ね、子どもとその親に寄り添う心理師をめざしていきたいと考えています。

教員
メッセージ

心理臨床学専攻主任 三井 知代 教授



心理臨床学専攻は、日本臨床心理士資格認定協会から臨床心理士養成のための「第一種指定大学院」として認定され、今年で開設23年目を迎えています。

本専攻ではこれまで134名以上（時間があれば人数が確認できますが、、、）に及ぶ修了生が臨床心理士として、病院、福祉施設、教育機関等様々な分野で活躍しています。

また、2018年度より公認心理師のカリキュラムもスタートし、国家資格である公認心理師の養成も行っています。

臨床心理士、公認心理師になるためには、幅広い心理学の諸理論を学ぶとともに心理アセスメントの能力と心理臨床の実践力を身につけることが不可欠です。

そのため、大学院では知識の習得のみならず、心理・教育相談室でのケース担当や、医療機関や福祉・教育・司法機関での実習などの実践活動、さらに修士論文作成のための研究活動などで学びを深めなければなりません。

本専攻では、同じ目標に向かう仲間と支え合いながら成長できるカリキュラム、そして環境が整っています。

▶ 心理臨床学専攻 修士論文題目（一部抜粋）

- ・子どもを亡くした遺族の悲嘆過程における怒りの感情の臨床的意義～その取り扱いと援助～
- ・理想的な母親像と被養育態度との関連
～家族構成及びきょうだい順位における視点から～
- ・大学生におけるコロナ禍の困難とレジリエンスおよび自尊感情との関連について
- ・児童養護施設職員における努力報酬不均衡とバーンアウトとの関連について
- ・大学生の友人とのつきあい方における感情表出の制御と自己愛との関連性

心理臨床学専攻修了後の進路

2002年から現在までに、すでに134名もの多数の臨床心理士が誕生し、学校・教育・医療・福祉・産業・地域保健といったさまざまな現場で活躍しています。また、2018年度より公認心理師の養成カリキュラムがスタートしました。

【修了後の主な職業】

- 小学校、中学校、高等学校などのスクールカウンセラー、または相談室における臨床心理士・公認心理師
- 教育研究所、総合教育センターなどにおける相談員
- 病院、精神保健センターなどにおける臨床心理士・公認心理師
- 児童相談所、児童福祉施設などにおける心理職や相談員
- 一般企業内に設置された相談室の臨床心理士・公認心理師や相談員

教育学専攻

教育学と心理学の両面から、高度な教育実践力と指導力を修得。



■ 新しい知識と技能を備えた教員の養成を目的としています。

教育学と心理学の両面から“こころ”の教育を実践できる教員を養成します。

■ 教育の専門的知識、課題解決能力、実践的指導力の育成をめざしています。

教育現場において直面する困難をどう乗り越えるかを中心に、教育学・心理学の包括的な専門研究を深め、教育に関する広い知見を培います。

■ 専修免許状^(※)の取得や「学校心理士」資格取得の道も設定されています。

「学校心理士」とは、学校教育において、教職にありながら問題に直面している子どもに対してカウンセリングなどによる直接的援助を行い、子どもを取り巻く保護者や教員、学校組織に対してコンサルテーションなどの心理教育的援助サービスを行う専門家のことを言います。

※専修免許状とは教育職員免許法(1949年法律第147号)第4条に定める教員の普通免許状のひとつです。

教員の普通免許状には、短大卒業程度の二種免許状、大学学部卒業程度の一種免許状と大学院修士課程修了程度の専修免許状があります。

免許
資格

1) 教育職員免許状 ・幼稚園教諭専修免許状 ・小学校教諭専修免許状

※専修免許状の授与資格を得ようとする場合は、その免許状に係る一種免許状を有する必要があります。

2) 学校心理士(受験資格)

所定の科目・単位を修得し、学校心理学に関する専門的実務経験が1年以上あれば「学校心理士」の受験資格を取得することができます。詳細は、一般社団法人学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会のホームページ(<http://www.gakkoushinrishi.jp/>)をご参照ください。

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

大学院教育学専攻では、本大学院の教育目的を達成するために設定された科目を履修し、基準となる単位数を修得した上で、本専攻が教育目標として掲げる、以下に示す3つの専門的な資質能力を通じて専門的職業に寄与できる者に対し学位を授与します。

- ①学校教育を中心に教育が直面するさまざまな課題に適切に対応する高度な専門的知識を修得し、活用できる。
- ②様々な教育現場において豊かな実践力と高度な指導力を備えた教育者となる。
- ③研究能力を高め、専門的知識に裏付けられた修士論文を作成できる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

本教育学専攻は、修了認定・学位授与の基本方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、教育学分野、教育心理学分野、教育実践学・国際教育分野に関する専門的科目群を、深広な学識と研究能力を養えるように体系的に編成し、講義、演習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

1 教育内容

- ①豊かな研究能力を養うため、教育学専攻の基本科目を配します。「教育学演習」、「教育心理学演習」、「教育実践学・国際教育演習」が属します。
- ②教育学分野の専門的科目群には、教育の本質と目的、内容と方法について教育的に深めることができる科目を配置します。教育的認識を深める科目として、「教育哲学特論」、「道徳教育特論」、「カリキュラム特論」、「教育方法学特論」、「教育社会学特論」、「教育行政学特論」、「臨床教育学特論」を配します。また、幼児教育の専門知識を深める科目として、「幼児教育学特論」、「幼児教育方法学特論A(基礎)」、「幼児教育方法学特論B(レジャ・エミア教育)」、「幼児教育マネジメント特論」を置きます。
- ③教育心理学分野の専門科目群には、子どもの発達と学習について心理学的に深めることができる科目を配置します。心理学的認識を深める科目として、「教育心理学特論」、「学校心理学特論」、「発達心理学特論」、「学校カウンセリング特論」、「学校心理臨床特論」を配します。また、教育心理学系の発展科目として、「心理教育アセスメント特論」、「生徒指導特論」、「教育研究法特論」、「障害児教育特論」、「身体教育学特論」を置きます。
- ④教育実践学・国際教育分野の専門科目群には、教育実践を深める科目及び国際教育に関連する科目を配置します。教育実践学系列の科目として、「総合学習特論」、「スポーツ教育学特論A」、「スポーツ教育学特論B」、「メディア教育特論」、「ホリスティック教育特論」、「生涯福祉特論」を配します。また、国際教育系列の科目として、「日本語教育特論」、「日本語学特論」、「国際教育特論」、「海外教育実習」を配します。
- ⑤教育学分野、教育心理学分野、教育実践学・国際教育分野に関する高度な認識と豊かな教育研究能力を身に付けるために、「英書講読(教育学、教育心理学)」を開きます。
- ⑥専門的な学修と研究の集大成として、修士論文を作成します。そのための探究的な学びの授業として、「特別研究」を置きます。

2 教育方法

- ①幅広いかつ専門的な知識を修得するため、必修科目と選択必修科目をバランスよく設定し、院生が単位の修得に必要な学修時間を確保できるよう設定します。
- ②教育学分野、教育心理学分野、教育実践学・国際教育分野のうち、一つの分野を選び、専門的に学修しますが、他の二つの分野を相補的に学修することによって、体系的に履修することができるようにします。
- ③研究能力を高めるため、各演習の授業においては、徹底した個別指導を行います。
- ④院生の主体的、探究的な学びを推進するため、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- ⑤小学校教諭専修免許状、幼稚園教諭専修免許状、学校心理士資格を取得できるような教育課程を配列します。また、学部授業科目を科目等履修生として履修することによって、日本語教員資格を取得できるようにします。

3 教育評価

- ①履修科目の成績評価として、GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度を活用します。院生が自らの学習成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるように支援します。
- ②修士論文の評価は、主査、副査によって行います。

教育者のエキスパートへ

教育学専攻では、現代のさまざまな教育課題に対応できる広い視野と見識をもち、専門的知見と実践的指導力を備えた教員を養成するために、「教育学分野」・「教育心理学分野」・「教育実践学・国際教育分野」の3分野を有機的・系統的に関連させたカリキュラムを構成しています。

1) 教育学分野

学校教育の諸問題・諸困難に対応できる知識と技能を修得し、研究を深めることが目的です。そのために、人間と教育の本質を問うという観点から、基礎として『教育哲学特論』を学習し、さらに研究課題に応じて、『道徳教育特論』『カリキュラム特論』『教育方法学特論』『教育社会学特論』『臨床教育学特論』『幼児教育学特論』『幼児教育方法学特論A・B』など教育学的知見を深めるように編成しています。



2) 教育実践学・国際教育分野

高度な実践の専門性をもつ教員をめざす方や、教育に関して国際的な知見と能力を身に着けることを希望する方の要望に応えることが目的です。そのために、教育実践力の徹底的な深化を狙う科目及び国際教育に密接かつ具体的に関連する科目を設置しています。教育実践学系として「総合学習特論」「スポーツ教育学特論A」「スポーツ教育学特論B」「メディア教育特論」「ホリスティック教育特論」「生涯福祉特論」、国際教育系として「日本語教育特論」「日本語学特論」「国際教育特論」「海外教育実習」があります。



3) 教育心理学分野

学校や家庭における子どものさまざまな問題・課題に対応できる知識と技能を研究・修得することが目的です。そこで、基礎として『教育心理学特論』を学習し、さらに教育援助に関する専門的・実践的研究を進めるために、『学校カウンセリング特論』『障害児教育特論』『身体教育学特論』などを履修します。また、実践的な力量をつけるために、『発達心理学特論』『生徒指導特論』『心理教育アセスメント特論』『教育研究法特論』を履修できるように編成しています。



カリキュラム以外の活動について

■ 学校園ボランティア制度

神戸市、伊丹市、加古川市、丹波篠山市、宝塚市、姫路市、大阪市、豊中市などの19の教育委員会と包括的な協定を結んでおり、院生たちがボランティアで授業や学級活動、行事などの指導補助を行っています。

■ 院生の活動内容

授業のない昼間の時間には、教育者としての就業、高度な専門知識を得るための研究、教育職員免許状取得のために学部の授業科目を科目等履修するほか、学校園ボランティア活動などに取り組んでいます。

在學生
メッセージ

中橋 実優さん 修士課程 1年次生



大学では心理学部に在籍し、カウンセラーになりたいという希望を持っていました。また、幼稚園教諭というものにも関心を寄せていたときに、大学院の教育学専攻に進むことでどちらの夢も叶えられると知り、進学することにしました。

進学して、学ぶことの大切さにあらためて気づき、大学時代からの研究を引き継ぎ、さらに深く自身の研究を進められることに魅了されました。さらには、他の院生の研究内容を聞いて、知らなかった知識を得られることや、留学生が多い環境もあって海外と日本の違いや留学生から見た日本の問題点を聞くことができたこともあり、さまざまな問題について考える機会が得られることがたまたま魅力に思えました。

今、私が取り組んでいる研究テーマは「大学生の対人恐怖の要因とその低減方法の検討」というものです。人と関わるのが怖いと思い、引きこもりやうつ病になってしまう対人恐怖心性がどのような要因で起こるのか、またどうすれば対人恐怖心性が低減されるのかを研究しています。卒業後は、幼稚園教諭として幼稚園で働く予定です。大学院では教育心理学分野で幅広い知識を得ることができたので、それを活かし子どもたちの心の発達のサポートをしていきたいと思っています。

教員
メッセージ文学研究科長
教育学専攻主任 金山 健一 教授

すべての人は幸せになる権利があります。しかし、現実には様々な課題を抱えています。特に子どもを取り巻く状況は厳しいです。大学院では教育を通して、人、社会、世界が幸せになる道を研究します。研究を通して、大学院生自らが学びを深め、自分の夢を自己実現し、研究を社会に還元できることを期待しています。

本専攻は、「教育学」、「教育心理学」、「教育実践学・国際教育」の3体系を軸として、日本語教育、スポーツ教育、メディア教育、特別支援教育、福祉教育にまで及ぶ多彩なカリキュラムがあります。さらに、幼稚園教諭、小学校教諭の専修免許状や学校心理士の受験資格の取得にも対応しています。

修士生の多くは、幼稚園、小学校、特別支援学校、福祉・看護、一般企業などさまざまな分野で活躍しています。また、他大学の博士課程に進学するケースもあります。現職の教員にとっては教育の実践をさらに深く学ぶ機会に、学部からの進学者や留学生にとっては将来の進路を切り拓く道になります。

教員養成にも、優れた専門性と実践的指導力の育成が求められる今日、「先生になるなら、親和!」をかかげる学部教育との連携をはかり、高度な研究能力を備えたエキスパートの養成をめざします。

▶ 教育学専攻 修士論文題目(一部抜粋)

- ・幼児の運動あそびにおける動きの習得過程に関する研究
- ・高校時代における学習動機づけと大学進学動機との関連についての研究
- ・国語力を高める読書活動 —科学読み物を中心に—
- ・日本と韓国の文化比較から考える日本語教育教材の分析
- ・日本事情教育における日本文化体験型授業の可能性について
- ・子どもの主体性を育む「環境による教育」についての一考察

教育学専攻修士後の進路

[修士後の主な職業]

- 幼稚園教諭、小学校教諭(専修免許状)
※ただし、一種免許状を取得していることが前提となります。
- 教育委員会、教育研究所、教育センターなどにおける指導主事、研究主事、コンサルテーション、相談業務
- 予防教育、ストレスマネジメント教育、健康教育に携わる学校心理士
- 教育相談、障害児教育におけるコンサルテーション、教育支援業務
- 児童館、各種福祉施設の指導員
- 看護、教育、福祉関係の専門学校の教員、スタッフ

教員紹介 [2024年度担当教員]

心理臨床学専攻



大島 剛 教授

- ◆ 専門分野 臨床心理学・発達臨床心理学
- ◆ 研究課題 児童相談所における心理臨床の特徴／新版K式発達検査の心理臨床
- ◆ 研究テーマについて 長年勤めた児童相談所心理職の経験をもとに、児童心理司のあり方における調査研究と提言および発達臨床現場の要となる検査法である新版K式発達検査2001を用いた心理臨床における解釈法の理論化や臨床的利用法について研究・教育を行っています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎『心理的アセスメント 適切な支援のための道しるべ』（稿著）ミネルヴァ書房 2023.
 - ◎『乳幼児精神保健の基礎と実践』（共著）岩崎学術出版社 2017.
 - ◎『臨床心理検査バッテリーの実際』（共著）遠見書房 2015.
 - ◎『新版K式発達検査の特徴と現場における臨床的応用』（単著）神戸親和女子大学大学院研究紀要 第10号 2014.
 - ◎『発達相談と新版K式発達検査』（共著）明石書店 2013.
 - ◎『一時保護所の子どもと支援』（共著）明石書店 2009.

- ◆ 担当科目 心理臨床学演習I・II・III・IV
特別研究I・II
臨床心理査定演習I（心理的アセスメントに関する理論と実践）・II
臨床心理実習I（心理実践実習A・B）
臨床心理実習II
福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）



椎野 智子 教授

- ◆ 専門分野 臨床心理学・精神医学・トラウマケア
- ◆ 研究課題 心的外傷（トラウマ）における客観的評価法の開発／トラウマ焦点化心理療法に関する研究
- ◆ 研究テーマについて 主に精神疾患における生物学的病態解明を行ってきました。近年は心的外傷（トラウマ）を対象として、生物学的・客観的に症状を評価する方法の研究を進めています。また、心理と身体の両面からアプローチするトラウマ焦点化心理療法についても関心を持って研究を行っています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎Triadic therapy based on somatic eye movement desensitization and reprocessing for posttraumatic stress disorder: A pilot randomized controlled study (共著) Journal of EMDR Practice and Research 2023.
 - ◎トラウマケア臨床におけるセラピストのあり方に関する一考察（単著）立命館大学心理・教育相談センター年報 第21号 2023.
 - ◎『障害をもつ人の心理と支援 一育ち・成長・かわりー』（共著）学術図書出版社 2022.
 - ◎マールリットメントの理解に関する研修効果の検討—子ども虐待を低減するシステムの構築を目指して—（共著）小児の精神と神経 第60巻4号 2021.
 - ◎Comparison of eye movements in schizophrenia and autism spectrum disorder (共著) Neuropsychopharmacology Reports 40(1) 2020.
 - ◎Common Variants in BCL9 Gene and Schizophrenia in a Japanese Population: Association Study, Meta-Analysis and Cognitive Function Analysis (共著) Journal of Medical Biochemistry 32(4) 2013.

- ◆ 担当科目 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）
臨床心理実習I（心理実践実習A・B）
臨床心理実習II



辻川 典文 教授

- ◆ 専門分野 社会心理学
- ◆ 研究課題 リスク認知／キャリア形成
- ◆ 研究テーマについて 便利ではあるが危険性を伴う科学技術がどのような要因によって社会的に受容されていくのか、また市民参加のあり方について研究を行っています。また、就職活動を始めた学生のカリヤ形成に関して、自己効力感や支援の在り方について研究を行っています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎リスク事象への不安感に対するゼロリスク志向と管理機関の信頼の影響 神戸親和女子大学研究論叢 56号 2023.
 - ◎『読んでわかる社会心理学』（共著）サイエンス社 2020.
 - ◎進路選択に対する自己効力と学生時代の達成経験、就職活動時のソーシャルサポートの関連性—内々定獲得経験による調整効果の検討— キャリア教育研究 第39巻第1号 2020.
 - ◎Changes in the Factors Influencing Public Acceptance of Nuclear Power Generation in Japan Since the 2011 Fukushima Daiichi Nuclear Disaster. (共著) Risk Analysis 36(1). 2016.
 - ◎進路選択過程に対する自己効力の因子構造と代理体験の効果の検討（単著）キャリア教育研究 第25号第2巻 2008.

- ◆ 担当科目



松本 剛 教授

- ◆ 専門分野 臨床心理学・人間性心理学・学校心理学
- ◆ 研究課題 人間性・心理学的アプローチによる心理臨床／エンカウンター・グループ
- ◆ 研究テーマについて これまで学校における教育相談や心理教育プログラムの開発・効果検証などの実践研究に関わってきました。Person Centered Approachの立場からの青年期～成人期を対象とした心理臨床やパーソニク・エンカウンター・グループにおけるファシリテーター研修などの実践・研究にも取り組んでいます。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎『教師の総合的力形成』（共著・編）ジヤース教育新社、2024.
 - ◎『レジリエンスを育むフォーカシング』（共訳）金子書房、2021.
 - ◎『エンカウンター・グループの新展開 自己を見つめ他者とつながるパーソンセンタード・アプローチ』（共著・編）木立の文庫、2020.
 - ◎『心の健康教育』（共著・編）木立の文庫、2019.
 - ◎学校におけるいじめ未然防止プログラムのための包括的測定尺度の改訂—信頼性・妥当性の検討と尺度の活用方法の考察—（共著）ストレスマネジメント研究、2019.
 - ◎『傾聴の心理学：PCAをまなぶ：カウンセリング、フォーカシング、エンカウンター・グループ』（共著）、2017、創元社.

- ◆ 担当科目 心理臨床学演習I・II・III・IV
特別研究I・II
臨床心理面接特論I（心理支援に関する理論と実践）
臨床心理実習I（心理実践実習A・B）
臨床心理実習II
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）

教員の紹介は、2023年5月末日現在の情報です。
年度により各科目の担当教員は変更になる場合があります



三井 知代 教授

- ◆ 専門分野 臨床心理学
- ◆ 研究課題 摂食障害への心理的アプローチ、摂食障害の予防的介入研究
- ◆ 研究テーマについて これまで摂食障害の予防的介入プログラムの効果の検討を行ってきました。最近では、体型不満ややせ願望など摂食障害発症に関連する要因について、身体的次元と心理的次元の関連性から研究を進めています。摂食障害の治療においても、心と身体の関連性に焦点つけたカウンセリングを研究しています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎Psychometric properties of the Eating Disorder Examination-Questionnaire and psychopathology in Japanese patients with eating disorders(共著)International Journal of Eating Disorders 54(2)2021.
 - ◎Reliability and validity of the Japanese translation of the Eating Disorders Quality of Life (ED-QOL) scale for Japanese healthy female university undergraduate students and patients with eating disorders(共著)BioPsychoSocial Medicine 14(16) 2020.
 - ◎Psychometric properties of the Eating Disorder Examination - Questionnaire in Japanese adolescents(共著) BioPsychoSocial Medicine 11-9 2017.
 - ◎「明日からできる摂食障害の診療II」(共著)精神科臨床サーブイス15 星和書店 2015.
 - ◎「森林植物園ワークキングによるストレス軽減効果の検討」(単著)心身医学 第51巻4号 2011.
 - ◎「大学における摂食障害への取り組み」専門医のための精神科臨床リユミエール28(共著)中山書店 2010.

- ◆ 担当科目 臨床心理実習I (心理実践演習A・B) 臨床心理実習II 相談指導I-II



吉田 圭吾 教授

- ◆ 専門分野 臨床心理学・教育臨床論・スクールカウンセリング
- ◆ 研究課題 学校現場における教育相談／非自死性自傷行為への対応／自死遺族相談の進め方
- ◆ 研究テーマについて 学校現場におけるスクールカウンセリングの臨床経験を活かし、中学生の問題行動理解と対応、保護者支援の事例研究を行うと共に、特に非自死性自傷行為症候群の理解と対応、ひきこもりの生徒の家庭訪問支援、親しい人を自死で亡くした人の自死遺族相談の事例研究を行っています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎「教師のための教育相談の技術」(単著)金子書房 2007
 - ◎「学校臨床心理学特論」(共著)放送大学教育振興会 2009
 - ◎「公認心理師分野別テキスト3教育分野」(共著)創元社 2019
 - ◎「自死遺族相談におけるタブー性と二次被害-医療との連携を巡って」神戸大学人間発達環境学研究所紀要 9(2)
 - ◎「自傷行為をする中学・高校生は友人とのかかわりをどのように捉えているか-自傷経験者のブログを用いて」(共著)神戸大学発達・臨床心理学研究18

- ◆ 担当科目 心理臨床学演習I・II・III・IV 特別研究I-II 臨床心理学特論II 臨床心理面接特論II 臨床心理査定演習II 臨床心理基礎実習 臨床心理実習I (心理実践実習A・B) 臨床心理実習II



吉野 俊彦 教授

- ◆ 専門分野 学習心理学・実験的行動分析・臨床行動分析
- ◆ 研究課題 選択行動の実験的分析／強迫性障害、職場うつなどの臨床行動分析
- ◆ 研究テーマについて 1.行動分析学の考えを、成人を対象とした外来の臨床心理場面で活かすこと。 2.社会的・日常的な行動を、行動分析学のことで記述し、理解すること。 3.日常的にわかっていくこと、科学的に(最近流行の「脳」やそれに関連する方法でなく、行動的に)わかっていくこととの関係を探ること。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎「不確実状況におけるリスク志向指示による操作が価値割引に与える影響」(共著)神戸親和大学大学院紀要 第20巻 2024.
 - ◎「正の強化は強化された反応を強化しない?: Win-Stay からWin-Shift のストラテジ獲得の発達の变化」(共著)神戸親和女子大学大学院紀要 第18巻 2022.
 - ◎「行動分析学から暴力行動を考える。体罰や虐待がなぜ使われ続けるのか、そしてどのように解決できるのか」(単著)子どもの虐待とネグレクト 第22巻 2020.
 - ◎「アレジ言語としての行動随伴性:主観と客観、適応と不適応の架け橋」(単著)神戸親和女子大学大学院紀要 第13巻 2017.
 - ◎「行動分析学ワークブック」(共著)学苑社 2016.
 - ◎「反応抑制手続きとしての弱化自己矛盾の行動随伴性」(単著)行動分析学研究 第29巻 2015.

- ◆ 担当科目 心理臨床学演習I・II・III・IV 特別研究I-II 臨床心理学特論I 臨床心理査定演習I (心理的アセスメントに関する理論と実践) 臨床心理実習I (心理実践実習A・B) 心理学研究法特論 認知行動療法特論 (心理支援に関する理論と実践)



古川 心 准教授

- ◆ 専門分野 臨床心理学
- ◆ 研究課題 発達障がいをもつ子どもとその養育者への支援/子ども虐待、マルトリートメントの発生・悪化・再発予防
- ◆ 研究テーマについて 人のこころを理解し、その成長を促すために必要なことは何かについて、親子関係・家族関係という視点から研究を行っています。特に発達障がいをもつ子どもとその養育者への支援、子ども虐待・マルトリートメントの予防に焦点を当てた研究に取り組んでいます。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎グループでのPCIT(Parent-Child Interaction Therapy:親子相互交流療法)を用いた地域コミュニティにおける子育て支援-神戸親和大学子育て支援ひろば「すくすく」での取り組み- (単著)神戸親和大学研究論叢, 57号, 2024.
 - ◎Parent-Child Interaction Therapy for Mothers of Children with Autism Spectrum Disorder: Use of a Visual Handout(共著)Advances in Neurodevelopmental Disorders, 3, 2019.
 - ◎Effectiveness of Child-Directed Interaction Training for Young Japanese Children with Autism Spectrum Disorders(共著)Child & Family Behavior Therapy, 40, (2), 2018.

- ◆ 担当科目 臨床心理基礎実習 臨床心理実習I (心理実践実習A・B) 臨床心理実習II コミュニティ心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)

教員紹介 [2024年度担当教員]

教育学専攻



小川内 哲生 教授

- ◆ 専門分野 教育心理学・教育相談
- ◆ 研究課題 学習への動機づけに関する研究、教育相談に関する研究
- ◆ 研究テーマについて 幼児期から青年期までの学習に対する動機づけ、満足遅延、教育相談、保育者効力感等をテーマとして研究を行ってきました。近年では学業領域における問題行動である学業的延引(先延ばし)行動について小学生から大学生までを対象とした研究を進めています。また、学校現場における教育相談の在り方についても強い関心を抱いています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎保育・幼児教育 5領域の内容と指導法(共著)学文社 2018.
 - ◎やさしく学ぶ保育の心理学(共著)ナカニシヤ出版 2016.
 - ◎新・はじめて学ぶこころの世界(共著)北大路書房 2006.
 - ◎Effects of Situational Factors on Academic Delay of Gratification in College Students(共著)Psychologia,60(3),121-131 2017.

- ◆ 担当科目 教育心理学演習I・II・III・IV
特別研究I・II
教育心理学特論



金山 健一 教授

- ◆ 専門分野 学校心理学・カウンセリング心理学
- ◆ 研究課題 包括的学校支援モデルの開発と効果測定
- ◆ 研究テーマについて 学校で直面している、いじめ・不登校・非行・学力問題に対して対症療法ではなく、予防・開発の視点を含めた包括的学校支援を実施することが必要です。そこで各地域の教育委員会と連携し、プログラム開発を行い効果測定の検証をしています。また海外の包括的学校支援モデルも研究対象としています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎教師とSCのためのカウンセリング・テクニック2(編者)2022 ぎょうせい
 - ◎Cyberbullying at University in International Contexts
『世界の大学でのネットいじめ』Routledge Taylor & Francis Group(共著) 2018.
 - ◎『Beyond Technique in Solution focused Therapy Eve lipchik(著)
プリーフセラピーの技法を越えて-イブ・リアプチック著』(共訳)金剛出版 2010.
 - ◎『軽度発達障害へのプリーフセラピー-効果的な特別支援教育の構築のために-』(共著)金剛出版 2006.

- ◆ 担当科目 教育心理学演習I・II・III・IV
特別研究I・II
学校カウンセリング特論



隈元 泰弘 教授

- ◆ 専門分野 教育哲学・道徳教育
- ◆ 研究課題 人間の成長と「善さ」の実現、相互承認、道徳性の発達
- ◆ 研究テーマについて 人間の成長・発達の本質としての「善さ」の実現を主題として、そこに教育がどのようにかわるかを考察しています。カント、ヘーゲルを中心とするドイツ近世の思想と、コールバーグをめぐる現代アメリカの思想をテーマとしています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎C.コスニック.C.ベック『教員養成の新視点 -カナダからの提言-』(共訳)見洋書房 2015.
 - ◎『Philosophische Pädagogik bei Kant und Fichte. Erziehung im Dienst der Freiheit(カントとフィヒテにおける「哲学的教育学」——自由の実現への教育——)』(独文)(単著)Verlag Senging(ドイツ) 2010.
 - ◎『現代哲学の真理論 ——ポスト形而上学時代の真理問題——』(編著)世界思想社 2009.
 - ◎『現代教育学のフロンティア ——新時代の創出をめざして——』(編著)世界思想社 2003.

- ◆ 担当科目 教育学演習I・II・III・IV
特別研究I・II
道徳教育特論
英書講読(教育学)



近藤 要司 教授

- ◆ 専門分野 日本語文法論
- ◆ 研究課題 古代日本語の文法・文法の変遷
- ◆ 研究テーマについて 古代語の疑問表現や感動表現の変遷、係り結び、古代語の名詞述語文
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎『古代語の疑問表現と感動表現の研究』和泉書院 2019.
 - ◎『「活用語カナ」型詠嘆表現の衰退について』神戸親和女子大学言語文化研究16号 2022.
 - ◎『「源氏物語」のヤウアリとヤウナリ』神戸親和女子大学『親和国文』41号 2006.
 - ◎『トキハの意味について』日本語教育学会『日本語教育』85号 1995.

- ◆ 担当科目 教育実践学・国際教育演習I・II・III・IV
特別研究I・II
日本語学特論



杉山 真人 教授

- ◆ 専門分野 スポーツ心理学・知覚運動学習・制御
- ◆ 研究課題 幼児のタイミング調節の原理/運動課題遂行中の予測の機能
- ◆ 研究テーマについて 運動技能の習得過程、特にパターンのある運動行動の学習過程で生じる予測機能について研究を行っています。さらに現在、幼児の運動技能の習得過程における予測機能の役割について研究を行っています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎『捕捉行為におけるターゲットとの協調性と頭部の先行運動』(共著)体育学研究, 63(1) 2017.
 - ◎『Order of a 'uniform random' presentation on contextual interference in a serial tracking task.』(共著) Perceptual and Motor Skills, 102(3), 839-854 2016.

- ◆ 担当科目 身体教育学特論

教員の紹介は、2023年5月末日現在の情報です。
年度により各科目の担当教員は変更になる場合があります



玉地 瑞穂 教授

- ◆ 専門分野 言語学、日本語教育、認知言語学、言語類型論
- ◆ 研究課題 文法化に関する類型論的研究
- ◆ 研究テーマについて 言語類型論の観点から、語彙が文法へと発展していく現象である文法化の研究をしています。現在は、通時的コーパスを用いて日本語の「言う」や「知る」などを用いた言語形式が伝聞証拠性や認識性のマーカーへと文法化していく過程の研究をしています。また、言語類型論の観点から日本語と他の言語の文法を対照し、第二言語としての日本語の習得調査や日本語の教え方に応用する研究も行っています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎「Development of the 'say-derived constructions :the case of tote and totemo」, (単著) Language and Linguistics vol. 18, no. 4, John Benjamins Publishing Company, 2017, 269-325
 - ◎「日本語における証拠性方略の通時的研究」, (単著) Proceedings of Annual Meetings of Kansai Linguistics Society 36号, 2016, 73-84
 - ◎「日本語における伝聞証拠性のマーカーと「語彙的引用構造」の比較通時語用論的観点から」, (単著) 語用論研究17号, 2015, 17-32
 - ◎「What L2 processing strategy reveals about the prototypical relationship: a case of Japanese modal markers of possibility」, (単著) Proceedings of the 23rd Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation vol.2, 2009, 430-439

- ◆ 担当科目 日本語教育特論



戸江 茂博 教授

- ◆ 専門分野 保育学・幼児教育学
- ◆ 研究課題 保育ケアの専門性の探究、子どもと遊びに関する研究
- ◆ 研究テーマについて
 - ①保育ケアの在り方を保育者の専門性の視点から実践的に明らかにしていきたい。
 - ②子どもの子ども性を人間学的な視点から解明することを通して、子どもの存在について探究する。
 - ③人間存在の根本現象として遊びを探究するとともに、遊びと教育の関係について深めていく。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎「基礎からわかる教育課程論」(監修・共著) 大学図書出版 2019.
 - ◎「幼児教育方法論」(監修・共著) 学文社 2019.
 - ◎「保育原理」(編著) ミネルヴァ書房 2019.
 - ◎「保育者・小学校教諭・特別支援学校教諭のための教職論」(監修) 北大路書房 2015.

- ◆ 担当科目 教育学演習I・II・III・IV
特別研究I-II
幼児教育学特論
幼児教育方法学特論A (基礎)



廣岡 義之 教授

- ◆ 専門分野 教育哲学・臨床教育学・道徳教育・キリスト教教育学
- ◆ 研究課題 ボルネー教育学研究、フランクルの教育思想研究、プーバーの教育思想研究、ケアリングと教育、森有正の人間形成論、道徳教育研究、西洋教育思想
- ◆ 研究テーマについて ボルネー、フランクル、プーバー、キリスト教教育、ケアリング等について、実存的教育という視点から共通に研究し、それぞれの研究テーマが思想的に相互に深い関連性を包含している点に関心を寄せています。すべてに関わる視点として、教育者と被教育者の「我・汝」の実存的出会いと信頼関係、教育的愛情、教育的使命の重要性が通奏低音のように流れていることであり、今後、そうした領域をさらに探求していきたいです。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎「ボルネー教育学研究 増補版 上巻」(単著) 風間書房 2018.
 - ◎「ボルネー教育学研究 増補版 下巻」(単著) 風間書房 2019.
 - ◎「フランクル人生論入門」(単著) 新教出版社 2015.
 - ◎「臨床教育学への招待」(単著) あいり出版 2020.
 - ◎「フランクル教育学への招待ー人間としての在り方、生き方の探究ー」(単著) 風間書房 2008.
 - ◎「絵で読む教育学入門」(単著) ミネルヴァ書房 2020.

- ◆ 担当科目 教育学演習I・II・III・IV
特別研究I-II
教育哲学特論
教育方法学特論
臨床教育学特論



藤原 忠雄 教授

- ◆ 専門分野 学校心理学、学校教育相談・生徒指導、健康心理学(学校メンタルヘルス)
- ◆ 研究課題 ストレスマネジメント、リラクゼーション、メンタルヘルス、学校教育相談学
- ◆ 研究テーマについて リラクゼーションを中核とした児童生徒対象ストレスマネジメント教育プログラムの開発及び効果検証、ワークエンゲイジメント向上を目指した教職員のメンタルヘルス支援、学校教育相談学の構築等々に取り組んでいます。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎「学校で使える5つのリラクゼーション技法」(単著) ほんの森出版 2006.
 - ◎「学校教育相談の理論と実践」(共編著) あいり出版 2018.
 - ◎「学校安全と危機管理」(分担執筆第14章心のケア) 大修館書店 2020.
 - ◎「教育・スポーツ領域における自律訓練法指導上の工夫と課題」(単著) 『自律訓練研究』42(1) 9-16, 2022.
 - ◎「大野理論を踏まえた学校教育相談学の提案と課題整理」(単著) 『立命館経済学』71(6) 205-229, 2023.

- ◆ 担当科目 教育心理学演習I-II
学校心理学特論
生徒指導特論
学校心理臨床特論
心理教育アセスメント特論
教育研究法特論



森 眞理 教授

- ◆ 専門分野 乳幼児教育・保育学、乳幼児教育保育国際比較
- ◆ 研究課題 子ども理解と子どもの遊びと学びの可視化、レジョ・エミア市の乳幼児教育研究、子どものアートの思考
- ◆ 研究テーマについて 子どもは「生きる・育つ・守られる」参加する権利を有していることを認識し、子どもの最善の利益を保障する乳幼児教育のあり方について研究しています。子どもは「うまれた時から市民である」「子どもは100の言葉を有している」と捉えるイタリアのレジョ・エミアの乳幼児教育と対話しつつ、子ども理解を再考し、日本の文脈における乳幼児教育のあり方について探究しています。
- ◆ 主な論文・著書
 - ◎「子どもの権利条約と乳幼児教育・保育実践の可能性ーレジョ・エミア市の乳幼児教育から考えるー」(単著) 『神戸親和女子大学大学院研究紀要 第18巻』2022, pp. 35-44.
 - ◎「子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論」(共編著) 北大路書房 2022.
 - ◎「レジョ・エミア市 自治体立乳児保育所と幼児学校の事業憲章:大切にしていること」(共訳) JIREA 2021.
 - ◎「コロナ禍におけるイタリアのレジョ・エミア市の乳幼児教育が示唆することー参加・対話・連帯に着目してー」(単著) 『神戸親和女子大学国際教育研究センター紀要 第6号』2021年, pp. 1-10.
 - ◎「子どもの育ちを共有できるアルバム ポートフォリオ入門」小学館(単著) 2020年(第3刷).
 - ◎「ドキュメンテーションーレジョ・エミアとの対話」(単著) 『発達 156号』ミネルヴァ書房 2018年, pp. 20-26.
 - ◎「レジョ・エミアからのおくりものー子どもが真ん中にある乳幼児教育ー」(単著) フレーベル館 2013.

- ◆ 担当科目 教育学演習I・II・III・IV
特別研究I-II
幼児教育方法学特論B (レジョ・エミア教育)

サポートと入試情報

■ 入学者の受け入れ方針 [アドミッション・ポリシー]

[心理臨床学専攻]

心理臨床学専攻では、学部における教育に関する一般的及び専門的教養の基礎の上に、心理学を教授し、深広な学識と研究能力を養うとともに、心理学に関する高度な専門的知識を有する臨床心理士及び公認心理師の育成を目的としています。

院生には、広汎で多様な専門科目の修得を求めています。また、そのために、基礎学力や一般教養をはじめ、人間に対する強い探究心と深い理解力、豊かな共感性を求めています。

そのため、臨床心理士及び公認心理師になりたいという強い意志があり、同時に、次のような人に入学してほしいと考えています。

- ① 心理学に関する専門的教養を身に付けている人。
- ② 研究に対する積極性と臨床実践への熱意を持った人。
- ③ 臨床心理士及び公認心理師として生涯学習と自己成長に向けて努力する人。

[教育学専攻]

教育学専攻では、学部における教育に関する一般的及び専門的教養の基礎の上に、教育学を教授し、深広な学識と研究能力を養うとともに、教育に関する高度な専門的知識を有する職業人の育成を目指します。

院生には、主体的、探究的な学びに向け、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた学びに積極的に参加することを求めています。また、教育に関する様々な科目について、学際的な履修を求めています。

そのため、次のような人に入学してほしいと考えています。

- ① 教育に関する専門的教養を身に付けている人。
- ② 教育に関する高度な理論的・実践的研究に取り組む意欲を持った人。
- ③ 教育に関わる職業人を目指す意志を持つ人。

■ 昼夜開講 [教育学専攻]

教育学専攻は現職教員や社会人の方々にも学びやすいように、平日6限～7限と、土曜日1限～3限に開講しています。

	時 限	心理臨床学専攻	教育学専攻	
			平 日	土曜日
1	9:00～10:30			
2	10:40～12:10			
3	13:00～14:30			
4	14:40～16:10			
5	16:20～17:50			
6	17:55～19:25			
7	19:30～21:00			

※授業のない昼間の時間では、教育者としての就業、高度な専門知識を得るための研究、教育職員免許状取得のための科目等履修、学内に設置されている子育て支援ひろば「すくすく」での活動や学校園ボランティア活動等の取り組みをしています。□は開講時間です。

■ 長期履修学生制度 [教育学専攻]

2年間の学費で最長4年間かけて修業できる制度です(ただし、申請し認められた場合に適用されます)。

教育学専攻では、仕事等と学業との両立で標準修業年限での修了が困難な方や、教育職員免許状(幼稚園・小学校教諭一種免許状)の取得を希望される方のために、「長期履修学生制度」を導入しています。標準修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な場合に申請することができ、適用が認められた場合には、標準修業年限2年間を超えての修業が可能になります。修業年限は年度単位で、申請により3年または4年となります。申請は、1年次からの適用を希望する場合には、出願書類提出時に長期履修申請書(本学所定の用紙に申請理由を明記の上、就業が理由の場合は「在職証明書」を添付)を提出してください。学費は、3年修了計画の場合は2年分の学費を3分割、4年修了計画の場合は4分割で納入していただくことになります。

奨学金制度

神戸親和大学大学院では、「学習奨励奨学金」制度(入学時選考)を設けています。

それぞれの専攻において、大学院修了後に専門職に就く意志のある優秀な院生の学業を奨励しています(詳細は「神戸親和大学大学院入学試験要項」でご確認ください)。また、大学ならびに大学院での成績優秀者や経済的理由により就学困難と認められた方のために、日本学生支援機構奨学金や神戸親和大学大学院授業料免除制度等の各種奨学金制度を充実させています。

科目等履修制度

教育学専攻では、科目等履修制度を利用し、学部の開講科目を修めることで、幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状および中学校・高等学校教諭一種免許状(国語)、中学校教諭一種免許状(数学・英語)の取得をめざすこともできます(入学後別途手続き※別途費用必要)。

2025年度 入試日程

専攻	入試種別	出願開始日	出願締切日(★)	試験日	可否通知発送日	入学金・授業料等納付金納付期限
心理臨床学専攻	一般 8月入試※1 学内 8月入試※1	8月16日(金)	8月27日(火)	8月31日(土)	9月6日(金)	9月27日(金)
教育学専攻	一般 9月入試 学内 9月入試	8月19日(月)	9月6日(金) ※2 持参受付日9月9日(月)	9月14日(土)	9月20日(金)	10月11日(金)
心理臨床学専攻 教育学専攻	一般 11月入試 学内 11月入試	10月21日(月)	11月4日(月・祝) ※2 持参受付日11月5日(火)	11月9日(土)	11月15日(金)	12月13日(金)
心理臨床学専攻 教育学専攻	一般 2月入試 学内 2月入試	2025年 1月27日(月)	2025年 2月7日(金) ※2 持参受付日2月10日(月)	2025年 2月15日(土)	2025年 2月21日(金)	2025年 3月7日(金)

★締切日消印有効

※1 心理臨床学専攻(一般/学内8月入試)はインターネット出願対象外入試です。出願手続については、大学院入学試験要項で確認してください。

※2 持参受付日に書類の持参を希望する場合は、事前にアドミッションセンターに連絡してください(持参受付日の17時までにご持参してください)。

2024年 オープンキャンパス

オープンキャンパスでは個別の入試相談コーナーを設けており、大学院への進学相談も受け付けています。

開催日 7月14日(日)、7月27日(土)、7月28日(日)、8月18日(日)、9月15日(日)、12月14日(土)

開催時間 各日10:00~15:45(午前・午後のどちらかを選択してください。)

※三宮と大学間で無料送迎バスを運行します。(予定)
送迎バスの発着場所・時間はホームページでお知らせします。

オープンキャンパス以外にも、
進学や研究内容について相談が可能な
「研究室訪問」も実施しています。

※ご希望の方は、事前予約が必要です。
電話、またはメールにてアドミッションセンターまでお申し込みください。



※オープンキャンパス日程は変更になる場合がございます。最新情報は本学ホームページをご確認ください。

大学院キャンパス

学内施設紹介



5号館 [大学院棟]

全面ガラスによる明るいロビーは、開放的なコミュニケーションの場になっています。1階には心理臨床実習室や一般外来を受け入れるカウンセリングルームである「心理・教育相談室」、プレイルームを設置しています。2～3階には講義室、演習室、院生研究室、検査室など院生の研究・学習の施設を用意し、充実した施設と環境のもとで研究活動が進められています。



1号館

講義室や演習室のほかに、小児保健実習室などがあります。教員の個人研究室、学生サービスセンターなどの事務室も1号館建物内にあります。



ラーニングコモンズ棟

スクリーンやプロジェクター、電子黒板が設置され、グループ学習に対応した学修環境です。



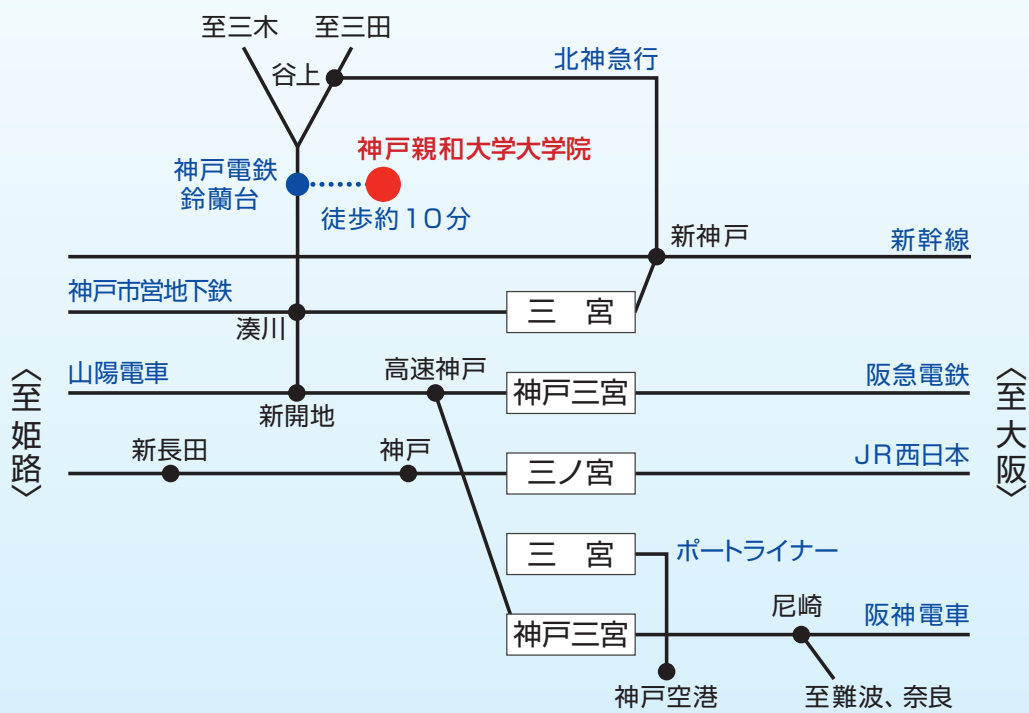
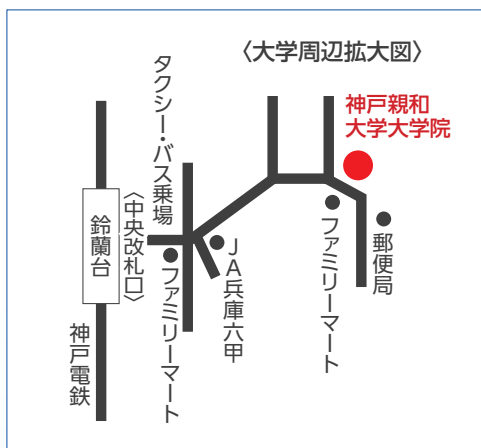
附属図書館

1階は資料検索、参考図書、絵本等の各コーナーがあり、2階にはPCと視聴覚資料や機材を設置したマルチメディアルームがあります。1～3階の開架書庫には約25万冊の蔵書が並ぶほか、平日は9:00～19:30、土曜日は9:00～17:00まで開室しており、学習や研究に専念できる環境が整っています。

アクセス

▶ アクセスマップ

神戸電鉄「鈴蘭台駅」中央改札口から徒歩約10分、シャトルバスで約3分。
JR「大阪駅」、「姫路駅」から約60分。





ともに学び ともに成長する

神戸親和大学

KOBE SHINWA UNIVERSITY

〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13-1

ハローシンワニュース

☎ 0120-864024 〈祝日除く月曜日～金曜日、9月以降の土曜日 10:00～17:00〉
9月以降の土曜日は日時により対応できない場合がございます。予めご了承ください。

TEL.078-591-5229 (アドミッションセンター直通)

FAX.078-591-7960

E-mail: nyushi@kobe-shinwa.ac.jp



2021(令和3)年度大学評価の結果、
本学は(公財)大学基準協会の大学基準に
適合していると認定されました。